



人権・同和教育だより
第 4 号
平成 29 年 1 月 1 2 日発行

*「HUMAN RIGHTS」(ヒューマン ライツ)
とは「人権」という意味です。

1 公開授業について

11月25日(金曜日)に全校一斉に人権・同和教育ホームルーム活動が実施されました。特に1年生については、公開授業として実施しました。

1年生はさまざまな人権問題、2年生は人権の歴史～水平の旗ひるがえる～、3年生は結婚差別をなくするためというテーマでした。1年生はクラスごとに取り上げる人権問題が異なっていました。

以下に学年ごとの生徒の皆さんの主な感想をいくつか紹介します。



<1年生>

- 「みんなと違う」というだけで嫌な気持ちになりそうなのに、それに加えてそれを馬鹿にされたら、本当につらいと思う。一人一人の考え方があると思うし、それが自分の中の普通で、みんながありのままの笑顔で過ごせたら、それが一番いいと思った。
- 今回習った「LGBT」で困っている人がいるかもしれないので、言葉遣いに気をつけ、偏見をゼロにしていきたいです。
- 一人一人の感性はやっぱり違うなと思いました。どれが正しいとか間違っているとかではないと思います。でも、少し人と違った意見を出すと「ええ…」、みたいになられるのはしんどいところがあります。平良さんとは違いますが、通じる場所があるなと思いました。というか、男の人が男の人を好きになって何が悪いんでしょうか。好きになったのがたまたま男の人だけなのに、批判されるのは悲しいことだと思います。

※ LGBTについて、
NHK(日本放送協会)福祉ポータル ハートネットより

L=レズビアン、G=ゲイ、B=バイセクシュアル、T=トランスジェンダー。日本語で言うと、順番に、女性同性愛者、男性同性愛者、両性愛者、生まれたときに法律的/社会的に割り当てられた性別にとらわれない性別のあり方を持つ人、となります。

なお、性同一性障害の当事者が自らをトランスジェンダーと呼ぶことも多いです。前者が医学的な疾患名であるのに対して、後者は自分達の生き方にプライドを持ち、名乗るときに使用されている言葉という理由からです。

「LGBT」は当事者が自分たちのことをポジティブに語る言葉として、北米やヨーロッパで使い始められ、最近では日本でも使われるようになってきています。日本語では、「性的少数者」「性的マイノリティー」という言葉も、同様の意味合いで用いられています。

<2年生>

- 愛媛県でも差別をなくす運動が行われていたことがわかりました。これから3年生になって、人権について話し合う機会がたくさんあると思うので、正しい知識をもって臨みたいと思います。
- 社会人になる前に、しっかりと人権に関わる知識を身に付けたいと思った。全国水平社の活動は、愛媛では関係ないイメージだったが、今回愛媛でも水平社運動が行われていたことを知り、水平社宣言の影響力があったんだと思った。
- 被差別部落の人たちは、差別のない平等な社会を目指し、自らの力で差別をなくそうとしていました。愛媛にもそのような人がいたことを初めて知りました。今もまだ残っている差別問題を多くの人が必要だと思いました。
- 昔、差別にあった人たちや運動に積極的に参加した人たちの努力があって今があるのだなと思いました。言葉を大切にしたいと思いました。
- 何かをしようと思ったときに、自分で考えて自分の力で何とかしようとする行動に移すことは難しいけれど、大事なことだと思いました。
- 自分の無知が相手を傷つけてしまうということがわかった。

<3年生>

- 自分がこのような差別に直面してしまったとき、相手が間違っていることをはっきり言えるようにしたい。
- 西条市における人権意識の調査結果を見てとても驚きました。間違っていることは間違っていると伝えられるようにならなければと思いました。
- 身近なところにも同和地区に対する偏見が残っていることが分かった。
- 自分の親や祖父母と今日学んだことを話して、しっかりと向き合いたいです。
- 西条市にまだ同和地区に対する偏見を持つ人がいた事に驚きました。私たちがきちんと正しい知識を持ち、一人でも多く偏見を持つ人がいなくなるように努めることが大切だと思いました。
- 西条市にも結婚差別が残っていて、身元調査をするつもりの人が多いことを知り、悲しい気持ちになった。
- 自分がもし差別に直面した時には、今日学んだことを活かして、相手や親を説得し、差別がなくなるよう行動したいです。
- 正しい知識を身に付けることで差別は無くしていけると思う。

2 平成28年度いじめSTOP愛顔の子どもフォーラムについて

12月17日（土曜日）に、愛媛県教育委員会主催の平成28年度いじめSTOP愛顔の子どもフォーラムが砥部町文化会館ふれあいホールで開かれ、本校からも人権委員数名が参加しました。このフォーラムの目的は以下のとおりです。



- 1 愛媛県内の小学生・中学生・高校生が、いじめ問題にしっかりと向き合って考えを深め、自分自身を振り返る。
- 2 他校の仲間と意見交換を行い、いじめを防ぐためにはどうすればいいか、いじめをどう解決するか、方法を考える。
- 3 自分がいじめ問題を解決するリーダーになって、地域の方々にも広くいじめ撲滅のメッセージを発信できる人になる。

このフォーラムの主な内容は、いじめ防止のための人権劇の上演、いじめ防止のための啓発番組放映、パネルディスカッションでした。これらの様子については一部ですが、全校集会でも紹介したいと思います。

檜垣先生にインタビュー

by 3年4組人権委員

12月のある一日、国語の檜垣先生にお話を伺いました。以下にその様子を掲載します。

Q1 なぜ、国語の先生になれたかったのですか？

中高生の頃から、古典作品のリズム感や音の響きが好きでした。文脈によってさまざまな意味になる言葉の面白さを、自分自身がかっこよく知りたいなと思い、国語の教員になろうと思いました。



Q2 さまざまな人権問題の中で一番関心があるものは何ですか？

11月にホームルーム活動の授業をした「性的マイノリティ」の人権問題です。性別に関わりなく、自分らしく過ごせるようにしていきたいですね。

Q3 いじめについてどう思われますか？

絶対に許してはならないものだと思います。私自身も小学生の頃、ランドセルの中身を畑に捨てられたり、仲間外しにされたりしたことがありました。「いじめ」は心の中に深い傷を残します。周囲の大人やクラス全体が「いじめ」を許さない雰囲気を作っていきたいです。

Q4 人権に関する、おすすめの本、映画、歌がありましたら教えてください。

- ・小学生の時に読んだ「ハッピーバースデー～命かがやく瞬間～」（青木和雄、金の星社、1997年）です。

※ 「ハッピーバースデー～命かがやく瞬間～」について、通販のAmazonでは以下のように紹介されています。

実の母親に愛してもらえず、誕生日さえ忘れられてしまった11歳の少女あすかは、声を失ってしまう。しかし、優しい祖父母の元で自然の営みに触れ、「いのち」の意味を学ぶ。生まれかわったあすかがどんな行動を起こすのか。そして、母親の愛は戻って来るのか…リアルな展開に、5頁に一度は、涙が噴き出る物語。

Q5 人権教育に関わる中で、特に印象に残っている出来事を教えてください。

「自分の良いところ」「他人の良いところ」を見つける活動をした際に、生徒たちの表情がキラキラ輝いていたことです。周囲から認められたり、自分で自分を認めたりすることは、とても大切なことだと感じました。

Q6 小松高生に対して何かメッセージをお願いします。

自分と全く同じ人間は恐らく存在しません。一人一人の体つきも、性格も、考え方も異なります。その違いを受け止め、相手を尊重できる人になってほしいと思います。

Q7 今、ハマっていることは何ですか？

新商品のお菓子や飲み物にチャレンジすることです。「季節限定」「期間限定」という言葉に弱いので。

Q8 これだけは言いたかったと言うことがありましたら？

高校で出会ったクラスメイト、先輩、後輩、先生方、すべてが何かの縁だと思えます。周囲の人を、そして何より自分を大切に、高校生活を送ってください。

2学期末で面談等を控えたお忙しい時期に、取材に応じていただき、檜垣先生ありがとうございました。